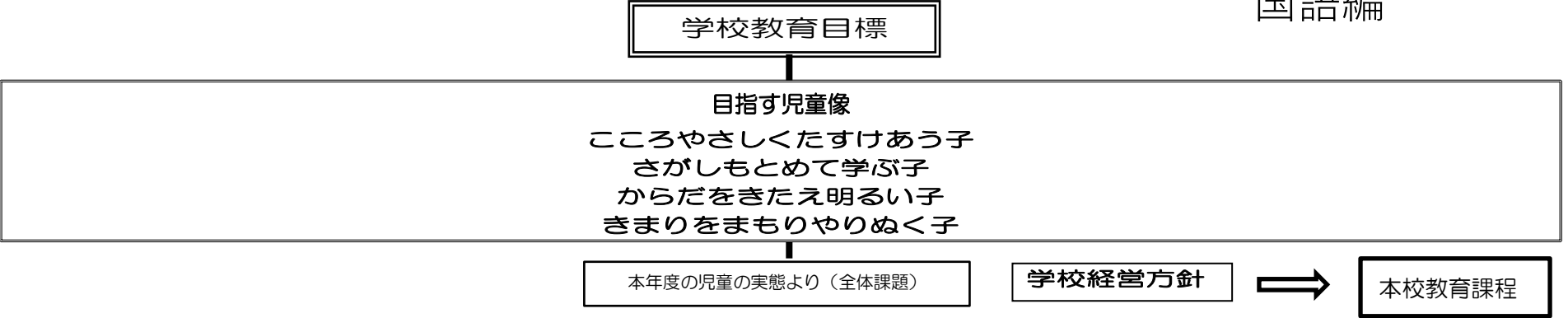




※学力調査の結果から、本校児童には次のような課題が見えてくる。

- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができない（知識・技能）
- ・物語を読み取ることができない（思考・判断・表現、読むこと）
- ・文章を書くことができない（思考・判断・表現、書くこと）
- ・書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考える（思考・判断・表現、書くこと）
- ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができない（思考・判断・表現、読むこと）
- ・情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使うことができない（知識・技能）

1 年生…拗音・促音・長音・助詞が定着していない。なめらかな音読ができないため、意味を捉え間違ってしまうことが多い。文章の中から問題にあった答えを書きぬくことに課題がある。聞く力も十分でない。また、語彙が少ない。

2 年生…仮名遣い、助詞、句読点などの基本的な表記が正しくなされていないケースが多数みられる。また、発音と表記が一致しないことから、文字と音の関係性を十分に理解できていない児童もいる。これは、児童の読解力低下の要因の一つと考えられる。

3 年生…漢字を読んだり書いたりすることは、概ね身に付いているが、物語や説明文を読み取ることや、伝えたいことを明確にし、内容のまとまりが分かるように文章を書くことに課題がある。

4 年生…漢字の基礎的な知識が身に付いておらず、学習した漢字を文章中で正しく使えない児童が多い。学力調査の結果では、物語や説明文を読み取る力は付いてきているが、相手や目的を意識して伝えたいことを明確にしたり、書くことの中心を明確にして文章の構成を考えたりすることについて課題がある。

5 年生…書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えて書くことに課題があり、県平均からも大きく下回っている。漢字の基礎的な知識が身に付いておらず 学習した漢字を文章中で正しく使うことができない児童が多い。

6 年生…全国平均をややや下回っている。次に、知識及び技能の情報の扱い方に関する事項、我が国の言語文化に関する事項に課題がある。一方で、思考・判断・表現の「読むこと（適切な言葉を文章から書き抜く）」に関しては、全国平均をややや上回っている。



*9 月からの取組		成果の検証
○効果的な「漢字テスト」をする（「覚えさせる」工夫よりも「覚えたくなる」工夫を） ○教科書「たいせつ」や「言葉の宝箱」を活用する ○キュビナを活用し、基礎的な言語力の問題に取り組む（漢字練習をキュビナ任せにはしない） ○漢字や音読は、身体を使って練習を繰り返す ○複数の資料や友達の意見を結び付けて、自分の考えを形成する経験ができる授業づくりをする ○読解力を高めるために、身体性を伴う読みをする（声に出す、色をつける、番号、指でなぞる、囲む、結ぶ等）		
1 年	・拗音等を含めた単語力の強化（宿題、隙間時間）を図る。 ・音読練習（教科書の話・教科書外の詩の音読）を充実させる。 ・「キュビナ」「アシストシート」を使った活用力の向上を図る。 ・スピーチタイム（朝の会、帰りの会）や日記指導による表現力の向上を図る。 ・日記指導において、型を示す。（したこと、詳しく、思ったこと） ・図書室で借りる本を、2 冊中 1 冊は読み物を選ぶよう指定する。	・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。
2 年	・家庭学習と連携し、漢字学習の効率化を図る。計画的な漢字テストを実施することで、学習意欲の向上と定着を目指す。キュビナを用い、個に応じた課題に取り組ませる。 ・書く活動では視点を明確にして指導し、デジタルノートを活用し互いに作品を読み合い学び合いの場を設ける。 ・既習の漢字を正しく用いさせ、会話文を使った日記を書けるようにする。 ・読書活動を充実させるため、学年文庫を設け、物語文に触れる機会を増やす。	・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。
3 年	・物語や説明文の読み取りの学習では、叙述を元に（根拠を挙げて）考え、自分の考えを書くことを授業で意図的に仕組む。 ・学習の中で、伝える相手や目的を意識し、伝えたいことや文章の組み立てを明確にした書く活動を取り入れる。	・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。
4 年	・条件作文の課題を出したり、感想や振り返りなどの文章の中で漢字を正しく使うことを意識させたりする。 ・書く学習の導入場面においては、書く目的や相手を明確にもたせ、常に意識しながら活動ができるようにする。また、調べたりまとめたりする際の視点を明確にする。	・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。
5 年	・条件作文など書く活動に取り組む。その際に、文章を書くときの約束を示す。 ・感想や振り返りなど、文章の中で漢字を正しく使うようにさせる。 ・「キュビナ」を活用させ、漢字の読み書きや、言葉の問題に取り組ませ、語彙力を高める。	・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。
6 年	・言葉の特徴や使い方（漢字）に関する事項を高めるために、小学生漢字卒業試験を実施する。 ・書くこと（事実と感想、意見の書き分け）に関する事項を高めるために、次の三つに取り組む。一つ目は、話すこと・聞くことにおいて、事実と考えを分けて話すよう促す。二つ目は、読むこと（説明的な文章）において、筆者の事例と意見を分けて読み取るよう促す。三つめは、書くことにおいて、文末表現に気を付けながら、自分の考えと、事実を分けて書くように促す。	・合格した人数で検証 ・「書くこと（事実と感想、意見の書き分け）」評価テストの実施し、達成度で検証